

A-8  
9:40  
0203

歯周基本治療が口腔関連 QOL に及ぼす効果について

赤松真也子

キーワード：口腔関連 QOL, 歯周炎, 歯周基本治療

【目的】患者中心の治療を計画し実施するためには、生物医学的データの他に生活の質 (QOL) を含めた心理・社会・行動面に対する認識が必須となる。本研究は口腔関連 QOL の尺度を使用し、歯周治療が患者の生活の質 (QOL) に及ぼす効果について検討することにある。

【材料および方法】東京歯科大学水道橋病院および慶應義塾大学病院の 2 施設において、歯周炎患者を対象に前向き研究を実施した。口腔関連 QOL 尺度である OHRQL を使用し、歯周基本治療前後における口腔関連 QOL のアセスメントを行った。

【結果および考察】112人が研究参加し、基本治療を終了した58名 (平均年齢53.6歳, 男性40%) を解析対象とした。被験者の97%が口腔関連QOLに何らかの問題を抱えており、特に、痛み、食事・咀嚼機能および心理的機能に問題が見出された。年齢や歯数と OHRQLスコアとの間に有意な相関関係は認められなかった。患者の52%が自分の口腔の状態は、同年代の他人に比較して悪いと認識していた。口腔清掃指導とスケーリング・ルートプレーニングを主とした歯周基本治療を行った結果、患者の歯周パラメーターおよびOHRQLスコアに有意な改善 ( $p < 0.01$ ) を認めた。

歯周炎は患者のQOLに負の影響をもたらし、歯周治療は患者の口腔健康の認識の改善に有効であることが示唆された。OHRQL尺度を用いたアセスメントを行い、問題ある領域に対する介入を実施することが、包括的な歯周ケアおよび治療には必要であると思われた。

(平成 20 年度日本歯周病学会企画調査研究)